現場で生きる若ものたち

入職してやっと8か月。一言に介護といっても多岐にわたる業務、そして一人ひとり異なる援助方針や対応を精一杯覚えた8か月だった。16時間を超える拘束時間を伴う夜勤を経験し、体調管理が難しいことも味わった。しかし利用者の笑顔と、共に働く職員に支えられて今がある。元来人懐っこい性格ではなかった。しかし多くの利用者と職員との会話が弾むようになり、自らが大きく成長していく実感に自信が生まれている。

障害のある親に育てられ、大学を出ると同時に当然のように介護職に就いた。配属されたデイサービスでは毎日利用者が替わり、利用者と業務を覚えるのが大変だった。
忙しいなかでも30名近い利用者さん全員と必ず言葉を交わすことを自らの課題とし、欠かさず実行している。「がんばりや！」「元気そうやな」と返ってくる言葉が何よりの励ましに。「早く、頼れる存在になりたい」。自らの成長を願い、夢を膨らませる。

日々の仕事は肉体的にも辛いことが多い。しかし、もっと大変なことは、介護の仕事が、日々刻々と変化する利用者の気分や想いを受けとめ、利用者に寄り添うことが求められる人と人との“感情労働”であること。
介護職になって２年目。ターミナルケアを直接体験し、それをまとめて援助実践発表会で発表する機会も得た。自らの人間性が試されるこの仕事の奥深さを感じ始めている。

学び、活動する介護職

「21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会」に参加する近畿地方の若手職員を中心に、100名が琵琶湖畔にてサマーフェスタを開催。学び、交流しあい、本音で語り合うことが明日の力となる。

11月11日――介護の日。老人福祉の向上と従事する職員の身分・給与の改善を求めて街頭にて宣伝行動。この瞳の輝きが、明日の福祉を照らしている。

写真と文・廣末利弥（社会福祉法人七野会）

【ひろばトーク】
ホームレス就労支援（まちの花屋Bon）　福田久美子　6

●特集●　現場で生きる一年目の若ものたち

【座談会出席者】
芳井　祥太／野中　孝夫／外山　華子／森山　嘉奈／
司会……丹波　史紀　8

●トピックス●

学童保育はいま　泊　唯男　28
ドイツの高齢者の生活　鵜殿　博喜　35
研究所会員・福祉のひろば読者のつどい開かれる　40

●連載●

フォーラム
もう一つの社会福祉実践研究運動～生活アセスメント研究会～
大野　勇夫　48
三島の郷だより　明日につながれ
「不安や遠慮」を「安心と期待」に――相談支援事業を通して――
金城　忠男　50
相談室の窓から
自分をよりよく発揮でき、認めてもらえる自分でありたい
青木　道忠　52
社会福祉ひろば
母子・老齢・一人親高校生に福祉給付金を実現した
“福祉と自然のまち”　鍋谷　州春　54
わらじ医者　早川一光の「よろず診療所日誌」
私の地域医療（その10）　早川　一光　56
よりあって　おりあって――宅老所よりあい物語――
宅老所の「泊り」は在宅の命綱　下村恵美子　58
育つ風景　同僚が病気になったとき　清水　玲子　60
落合健二のニュース私考
「ダム中止」の可否は関係住民との対話に　落合　健二　62
映画案内　『おとうと』　吉村　英夫　64
現代の貧困を訪ねて　老齢加算訴訟・原告敗訴　生田　武志　66
海外社会保障事情
フィンランドにおける社会サービスの現状と課題　山田眞知子　68
私の研究ノート
ホームレスの人の生活史から考えるホームレス問題　中野加奈子　70
ホームレスから日本を見れば
「ケア・支援補助金」制度創設を提案する　ありむら潜　72
花咲け！男やもめ　川口モトコ　74
バリアフリーな社会をめざして
心に銀幕のあかりを灯し続けたい　平塚千穂子　75

今月の本棚　42／みんなのポスト　46／ことばで遊ぼう！　73／
福祉の動き　76
●グラビア● 現場で生きる若ものたち

福祉のひろば
2010年2月号

●表紙の作品●
神門やすこ

●カット●
川本　浩・田上明子

ひろば トーク

ホームレス就労支援
（まちの花屋Bon）

有限責任事業組合Wac-LLP　パートナー　**福田久美子さん**

日雇い労働者のまち・釜ヶ崎（大阪市西成区）で二〇〇八年五月、「まちの花屋Ｂｏｎ（ボン）」（フランス語で〝良い〟の意味）を開業しました。

ホームレスの人の仕事づくりとして立ち上げ、できるだけ多くの人に機会を提供するため、希望者に週三回、二か月間のサイクルで就労体験をしてもらっています。そのなかから公園の植栽管理の仕事に就いた人もいます。

店の運営主体は、地元でホームレス支援をしているＮＰＯと社会福祉法人、民間企業三社の合計五団体で設立した有限責任事業組合「Ｗａｃ（ワック）-ＬＬＰ（エルエルピー）」です。Ｗａｃはワーク・アクション・コミュニティの略で「仕事を通じて地域を元気にしよう」というイメージでつけました。ＬＬＰは有限責任事業組合のことです。

もともとは「ホームレス支援の雑誌『ビッグイシュー』の花屋版ができないか？」という発想から生まれました。まちかど販売の拠点として店を出したのですが、花を売るだけでなく、店がまちの人のよりどころになれたら、という願いもありました。

開業前は、仕事にあぶれて昼間からお酒を飲んで酔っぱらった人から「釜ヶ崎で花屋なんか儲かるか！」「一年続いたら土下座したる」と言われたこともありました。しかし今では、そう言っていたおっちゃんたちが、毎日店に顔を出し、花を運ぶのを手伝ってくれたり、「花はええなぁ」と言ってくれるようになりました。また、いらなくなった学校の椅子と机をもらって店に置き、壁に黒板をかけたところ、子どもたちが学校帰りにやってきて、黒板いっぱいに花の絵を描いたりして遊ぶようになりました。

二〇〇九年一一月、いよいよ花のまちかど販売が始まりました。大きな前かご付きのデ

ふくだ　くみこ

株式会社美交工業専務取締役。2003年より、知的障がい者の雇用をきっかけに「人と環境とのつながりを大切にした社会づくり」を理念に掲げ、障がい者、ホームレス、中国帰国者二世、ニートなどの就労支援に取り組む。また、NPO法人釜ヶ崎支援機構とのJV（共同企業体）による大阪府営住吉公園の運営管理や、民間の総合福祉施設で園芸福祉活動を実践。2008年から、ホームレス・ニートの就労支援会社として立ち上げた有限責任事業組合Wac-LLPのメンバーとして活動している。

ンマーク製自転車や、障がい者作業所でつくってもらった専用リヤカーに花を積み、区内の三か所で平日午前九時半から午後四時頃まで、シクラメンなどの色とりどりの鉢花や、障がい者作業所から仕入れた苗などを売っています。

販売員になる人には三日間、花の知識や売り方などの研修を受けてもらい、一日六〇〇〇円の研修手当を支給します。そしてその半分（三日分で九〇〇〇円）を元手に、販売員さん自身がどんな花が売れるかを考え、店から花を仕入れて販売します。利益の八割が本人の収入となり、二割は店へ納めます。売れ残った花は夕方、店が元値で引き取ります。まったく売れない日もあるので、一日二〇〇〇円の最低収入を保障しています。

大阪市からの事業費補助が二〇一〇年三月までなので、それまでに「これならうまくいく」というモデルをつくりたいと考えています。地元の病院や社会福祉施設からも、プランター管理や出張販売・カタログ販売などの要望がきているので、うまくいけば販売員の数も増やせると思います。将来はビジネス街などにも進出したいですね。

私は本業であるビルメンテナンス業で、障がいのある人やホームレスの人の雇用に取り組んできました。その経験から、「企業」「支援者」「当事者」のトライアングルがなければ就職困難者の就労支援はできないと考えています。花屋をするだけならＮＰＯも社会福祉法人も要りません。でも、企業が仕事を軌道に乗せ、ＮＰＯや社会福祉法人などの支援者が生活支援も含めて当事者を支える。それぞれが対等な立場で協力し合い、役割をきちんと果たすことが求められていると思っています。

（取材　中島悦子）

現場で生きる一年目の若ものたち

本誌ではこれまでに、福祉で働くことを目指す一五人の学生たちの声、そしてその願いを現場としてどう受け止めるか、数回にわたって紹介してきました。（二〇〇九年九・一〇・一二月号参照）

今回はそのシリーズの第三弾として、現場で生きる入職一年目の若者たちに集まっていただきました。

学んできたこと、実際に働いてみて、現実の仕事のなかで当事者や家族との向き合いどう感じているか、自分にとっての居場所などを語り合いました。

出席者

芳井祥太（介護士）
野中孝夫（生活支援相談員）
外山華子（保育士）
森山嘉奈（病院相談員）
司会……丹波史紀（福島大学准教授）

福祉の職場を選んだのはどうして？

教えてもらうことも多い。笑顔を見たり、感謝されると嬉しいです。でも、この時間帯は排泄、食事の配膳、と決まっていて、日頃の業務のなかで一人ひとりとゆっくりていねいにかかわることが時間的に難しい。一番大事にしたいことなのにそれが悩みです。

利用者はフロア全体で五〇人ですが、担当制で現在は七、八人を担当しています。

どんなふうに楽しみを持ってもらえるか、刺激のある生活を送ってもらえるか、いろいろ自分なりに検討したり、他の職員や先輩か

芳井

在宅支援アルバイト、児童施設実習、高齢者入所施設へ就職

学生時代に二年間ほど訪問介護のアルバイトをしました。それは、全身性障害の方を対象に自宅で料理をつくったり、排泄の介助をしたりする仕事でした。実習では児童養護施設に行ったのですが、児童より自分には高齢者のほうが向いている、と感じました。

高齢者は年も離れているので、

芳井（よしい）　祥太（しょうた）さんプロフィール

（社会福祉法人七野会　老人保健施設ライブリィきぬかけ）

（京都市）

介護士

1986年生まれ。花園大学卒業。趣味は音楽鑑賞です。洋楽が好きで家にあるＣＤはほとんど海外アーティストの作品です。特技は体を動かすことでサッカー、野球、バレーボールなどスポーツ全般が得意です。社会人１年目としてこれからも仕事に励んでいきたいと考えています。

らこういうときはこうすればいいとか、こんな趣味を持っておられるよとか、裁縫や折り紙を試してみたらとか、いろんなアドバイスももらいながら、担当としてその方の生活を支えていきたいと思っています。

外山

ゼミの先生との出会い
保育園でゼロ歳児を担当

ゼロ歳児一四名のうち月齢の大きい子ども七人を臨時職員さんと二人で担当しています。子どもたちは一日のうち大半を保育園で過ごすわけなので、二四時間の生活づくりを父母と連携して一緒にすすめています。

ゼロ歳児の担当なので生活づくりが主ですが、さまざまな家庭環境でさまざまな生活リズムがあるなかで、園のリズムをつくっていくことが難しいと感じました。子どもたちは何が好きか、こんな遊びはどうかなと模索する毎日です。一緒に担当している人もゼロ歳児保育は初めてなので、他の職員からアドバイスをもらいながら一緒に模索しながら保育をつくっているという感じです。

私は長女で下に弟が三人います。いとこも五人いて、小さいと

外山（とやま） 華子（はなこ）さんプロフィール

（社会福祉法人名南子どもの家 ほしざき保育園）

（名古屋市）

保育士

1986年生まれ。日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科卒業。在学中、ゼミで乳幼児の発達について学ぶ。サークルでキャンプに、ライブに、燃えていた大学時代でした。現在はほしざき保育園保育士としてゼロ歳児クラスを担当。趣味は仲間と共に美味しいものを食べたり、音楽を作ったり聞いたりして楽しむことです。